

## 買いの技法 (50・-5・-10・-20・-30は宝のナンバー)

- 1) 50は50日移動平均(日経平均用)
- 2) -5は50日移動平均の-5%ライン(日経平均用)
- 3) -10は短期株価弾性値が-10より下(個別株価)
- 4) -20は中期株価弾性値が-20より下(個別株価)
- 5) -30は長期株価弾性値が-30より下(個別株価)

下げ相場はこれで儲けろ!!

### ■-10、-20、-30の条件設定

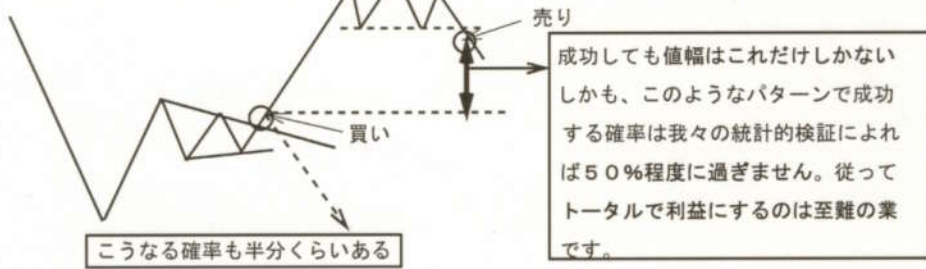
### 上記条件の確率検証

30%以上上昇の件数	183 件	30%以上上昇の確率	35.95 %
20%以上上昇の件数	87 件	20%以上上昇の確率	17.09 %
10%以上上昇の件数	116 件	10%以上上昇の確率	22.79 %
ダメの件数	123 件	ダメの確率	24.17 %
30%上昇に要した日数平均	15.46 日	30%以上の平均上昇率	61.67 %
20%上昇に要した日数平均	9.06 日	20%以上の平均上昇率	24.42 %
10%上昇に要した日数平均	9.41 日	10%以上の平均上昇率	14.98 %
		ダメの平均上昇率	3.66 %
		全体平均上昇率	30.64 %

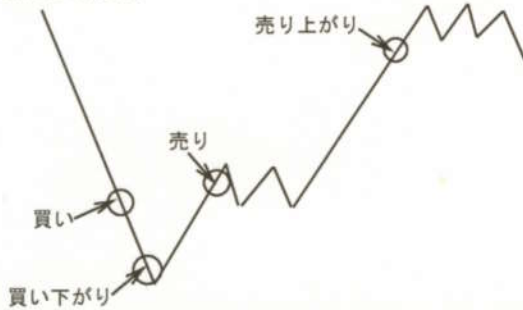
### チャートストの錯覚

- 上げトレンドを確認してから買えというのがチャートリーディングの常識です。
- しかしこれは明らかに間違った常識です。
- 上げトレンドが確認(?)できたと思った時は既に株価は高値にあります。
- そのような高値を買って後、なお相場が上げ続ける確率はケイ線の入門書に書かれているほど高くはありません。(確率検証をしてみるといやというほど実感できます)
- 株価変動についての唯一の真理は株価は動くということです。
- 高いところを買ってより高いところで売れる確率と安いところを買って、さらに下がれば買ひ下がり、その結果平均買値より高いところで売れる確率とでは後者の方が問題なく高いという統計的実実があります。

従来のチャートストの考え方



合理的な考え方



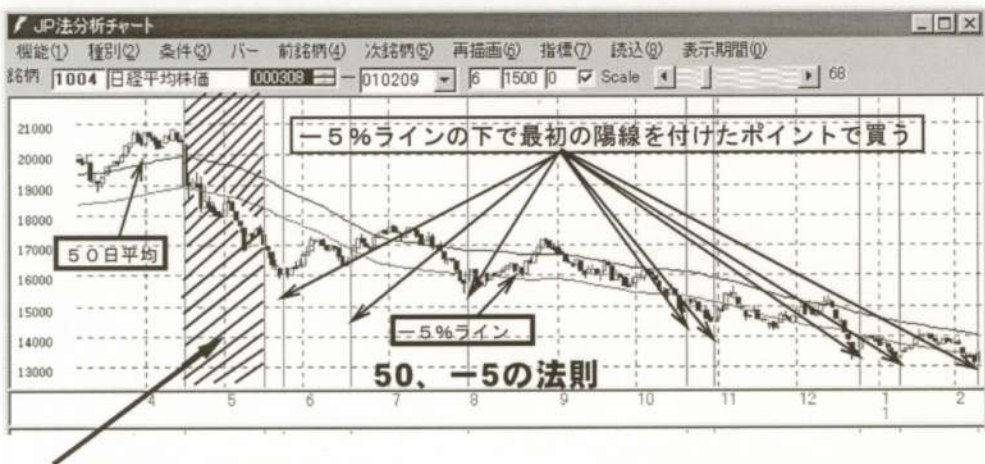
猛反感を買うだろうが「それでも地球は回っている」

このような意見は大方のチャートファンの猛反発を食らうことは十分承知の上です。

人によっては半生を賭けて研究し信じてきたことが頭から否定されるのですから、私の意見（というより事実なのですが）が簡単に受け入れられるとは思っておりません。

何よりも私自身がつい最近まで熱狂的なケイ線信者でしたので、この統計的事実を目の前につきつけられた時は大変なショックを受けました。

しかし、株式投資で大切なことは信じるか信じないかではなく、真実か否かということです。株価変動は目先に限れば確率変動に過ぎずパターン分析を過信することは非常に危険です。

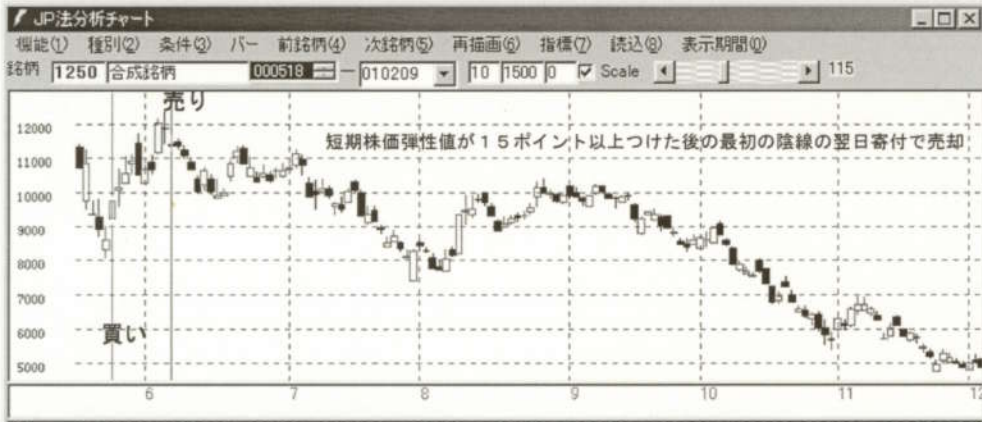


移動平均が高い水準（週足長期弾性値10ポイント以上）で逆V字反転した場合、その後20日間は戻り売り圧力が強いと見て買いを見送る。

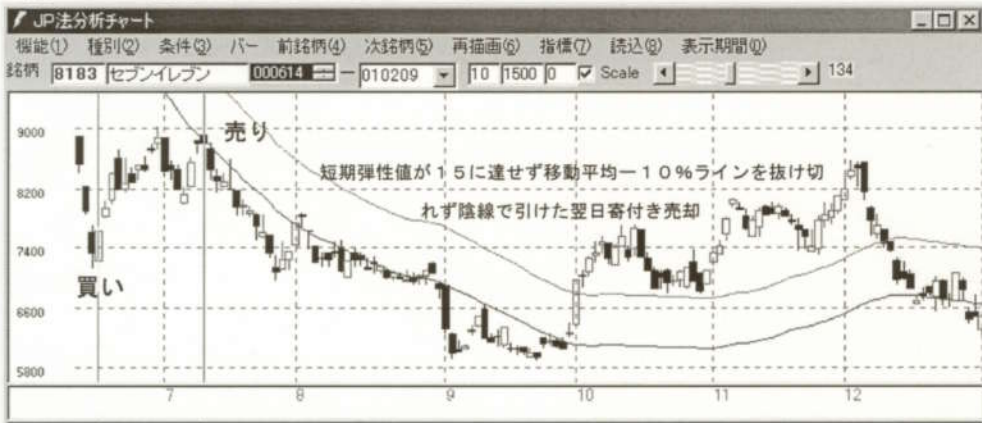
5月25日の買い銘柄検索例

絞り込み検索画面から「貸借銘柄」⇒「15出来高水準」で150日平均3万株以上の銘柄⇒「23JP法検索」を開き前記シートで検索する⇒当日陽線銘柄に絞り込む

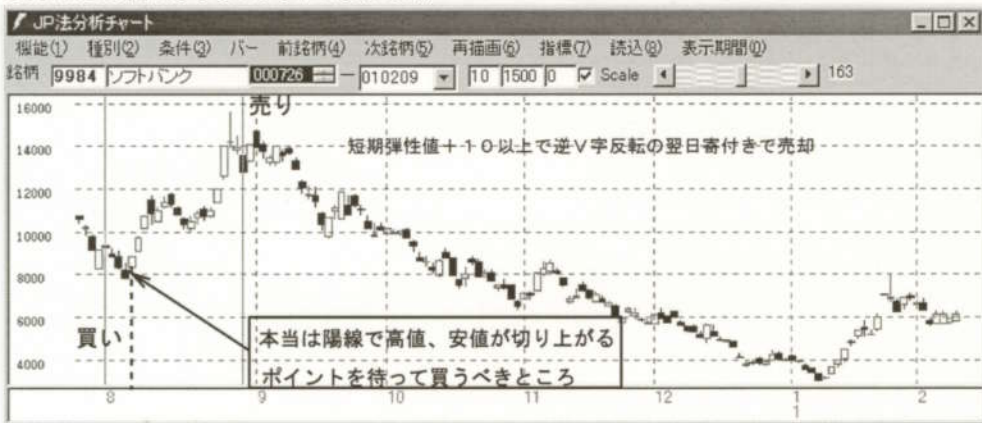
合格銘柄 (9477角川書店 9715トランスコスモス) 合成日足



6月19日の例 (8183セブンイレブンのみ)



8月1日の例 (9984ソフトバンクのみ)





10月20日の例 (4768 大塚商会 5954 トーブラ 5958 三洋工業 9435 光通信)



今回の検索条件には単に大きく下がったというだけで、それが下げ止ったかも知れないという条件が入っていません。従って検索合格銘柄も8月1日の例のように陽線で高値、安値が切り上がるポイントを待って買いに出るべきです。

10月31日の例

相場場表示

日付: 20001031 銘柄数: 11

ソートキー: 昇順 降順 コード 終値 値幅+ 値幅% 出来高 弾性値 RSI カイリ 出来倍 出発比

No.	コード	銘柄名	終値	値幅	値幅+	値幅%	出来高	弾性値	弾V	RSI	カイリ	13M	26M	出来倍	出発比
1	7910	鉛谷産業	50	=	0	0	144	-13.8	-	16	-25.4	↓	↓	0.7	0.21
2	5954	トーブラ	220	△	1	0.5	60	-12.4	-	40.6	-25.4	↓	↓	0.3	0.24
3	8236	丸善	237	△	1	0.4	1243	-11.5	-	33	-17.5	↓	↓	0.4	1.21
4	5958	三洋工業	243	△	8	3.4	399	-20.6	-	32.6	-34.6	↓	↓	0.5	1.13
5	9605	東映	441	▼	-8	-1.8	446	-13.1	-	12.4	-24.4	↓	↓	0.9	0.3
6	8577	日栄	480	▼	-40	-7.7	483	-14.5	-	11.3	-30.9	↓	↓	2.1	0.73
7	9737	CSK	1490	△	40	2.8	2130.8	-17.3	-	14.8	-35.1	↓	↓	2.8	2.85
8	9435	光通信	1850	=	0	0	660.8	-20.9	△	17.6	-40.1	↓	↓	1	2.13
9	4768	大塚商会	2570	▼	-190	-6.9	72.4	-17.6	△	13.7	-46	↓	↓	0.6	0.25
10	7453	良品計画	5540	▼	-210	-3.7	166.4	-17	-	1.8	-28.8	↓	↓	1.5	0.59
11	9984	ソフトバンク	6550	▼	-290	-4.2	3619.6	-11.7	-	31.8	-25.5	↓	↓	2.4	1.09

今回は合格銘柄が11ありました。試みに1000円以下の銘柄と以上の銘柄とに分けて合成チャートを作成してみました。





11月20日の例 (4921ファンケル 7453良品計画 8568シンキ)



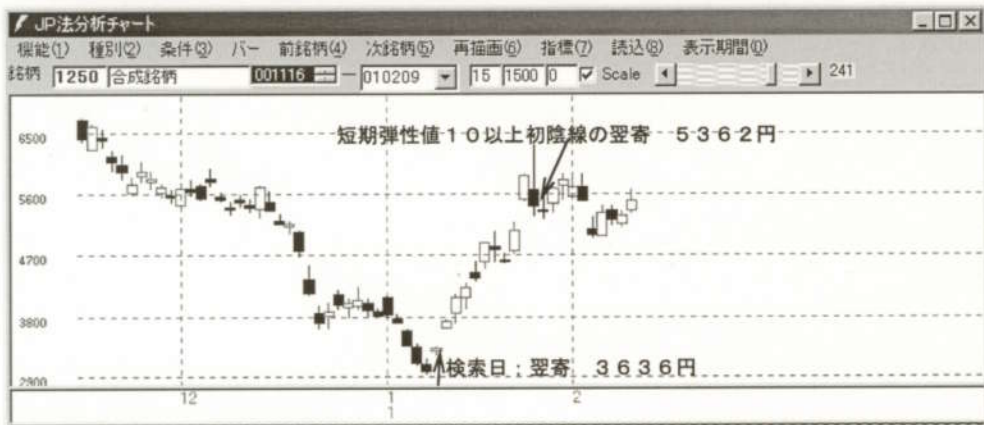
11月24日の例 (ファンケル 良品計画 三城 シンキ マルトミ)



12月25日の例 (ミツミ、トランスコスモス、マルトミ、マツモトキヨシ、ソフトバンク)



1月12日の例 (ミツミ、トランスコスモス、マルトミ、マツモトキヨシ、ソフトバンク)



2月9日の例・・・合格銘柄なし

念のため前に解説したRJ指数で銘柄を選んでみました。条件は当日RJ < 2.0、前日RJ < 1.5の銘柄のうち10日間の値下がり率の大きい順に同業種の重複と3000円以上の値嵩株を避けた5銘柄を選んで見ました。





# 空売りの技法（日足編）

(表1)

WORK検証結果			
検証期間	2000/02/15 ~ 2001/02/08	売買期間	40
シート番号	60 ~ 60	白	
30%以上下降の件数	23 件	30%以上下降の確率	35.38 %
20%以上下降の件数	15 件	20%以上下降の確率	23.08 %
10%以上下降の件数	17 件	10%以上下降の確率	26.15 %
ダメの件数	10 件	ダメの確率	15.38 %
30%下降到要した日数平均	32.83 日	30%以上の平均下降率	51.69 %
20%下降到要した日数平均	22.73 日	20%以上の平均下降率	27.1 %
10%下降到要した日数平均	19.88 日	10%以上の平均下降率	13.73 %
		ダメの平均下降率	4.09 %
		全体平均下降率	28.76 %

下記のワークシートの条件を買いサインの出た翌週の寄り付きで機械的に空売りしたとすると表1のような結果になります。

検証結果

(表2)

検証条件

	周期			以上			以下			昇降	××日前	以上
	短	中	長	短	中	長	短	中	長			
カイ離	10	20	50		10	40						
相対力指数	1	9									1	80
M指標	13	26		10	10							
RJ指数	9	14		70					3		1	80

## 検索合格銘柄の分布状況



2000年2月15日検索合格銘柄

相場表示

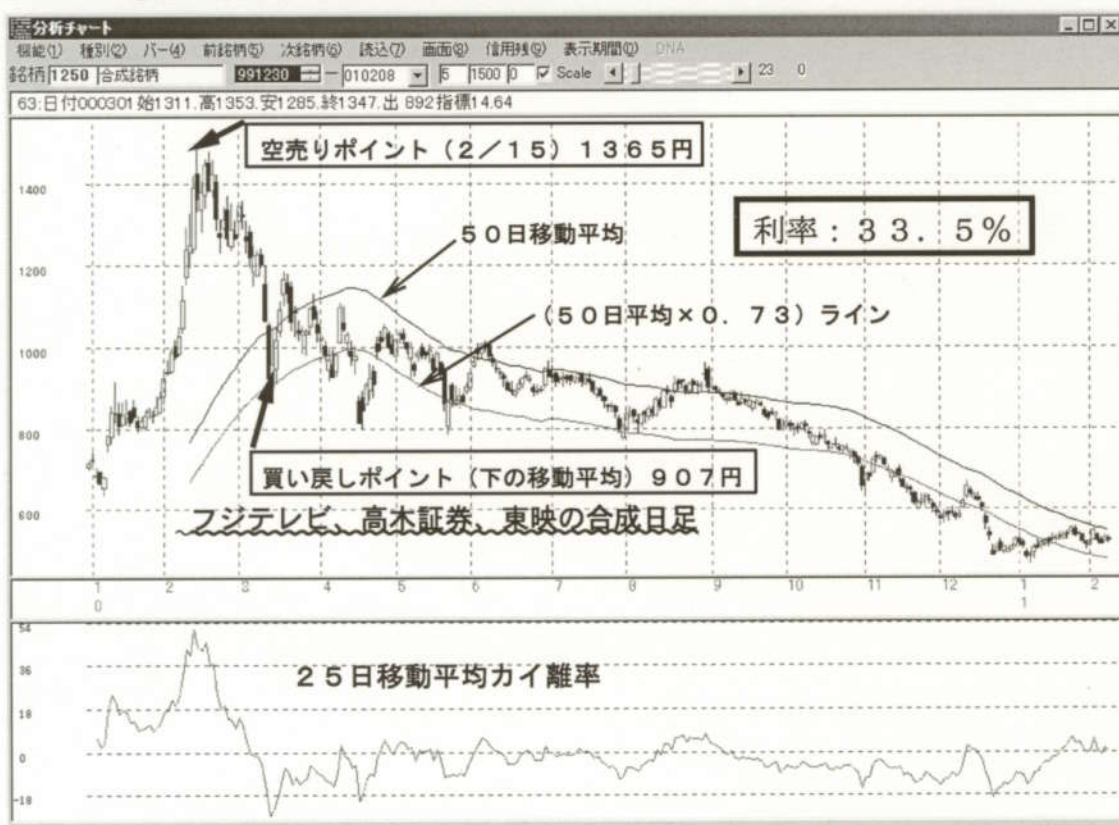
日付: 20000215  
銘柄数: 6

書込 抽出 印刷 終了

ソートキー: 昇順 降順

No.	コード	銘柄名	終値	値幅	値幅+	値幅%	出来高	弾性値	弾V	RSI	カイリ	13M	26M	出来倍	出発比
1	4676	フジテレビ	2590	△	50	2	4918	20.6	-	87.6	47.5	↑	↑	1.1	457.91
2	8626	高木証券	386	▼	-33	-7.9	239	16.5	-	79.6	42.1	↑	↑	1	0.4
3	9401	東京放送	5800	▼	-250	-4.1	1606	19.2	-	74.4	35.3	↑	↑	1.3	0.91
4	9404	日本テレビ	166000	▼	-12000	-6.7	68	20.6	-	78.2	38.2	↑	↑	0.6	0.26
5	9605	東映	1120	▼	-100	-8.2	1884	17.7	-	79	42	↑	↑	0.5	1.27
6	9984	ソフトバンク	169000	=	0	0	22039	23.4	-	88.2	56.9	↑	↑	1.5	0.66

上記合格銘柄のうち東京放送、日本テレビ、ソフトバンクは値がさ株なので5000以下の3銘柄で合成チャートを作って見ると下のようになります。



10回の内8回は成功する確率(少なくとも過去には)の投資法なので3銘柄同時に空売りすればかなり高い確率で儲かることが期待できます。しかも検索の条件設定は簡単ではあるが合理的な推論を積み重ねて作成されたものです。権威あるケイ線の本に書いてある投資法や中国やユダヤの相場師の秘法といった確認不可能な投資法よりはるかに合理的なはずです。(ケイ線の入門書によくある後付の解説ではなく、出動のタイミングから銘柄の選択まで全く機械的になされた点に注目して下さい)



2月15日合格値嵩株の合成日足 (東京放送、日本テレビ、ソフトバンク)



私はJP法が一番株式投資の実戦に適した投資法であると信じています。もし酒田五法とか一目均衡表とか柴田野線とかはたまた中源法とかの方がJP法より優れていると考えているにも拘わらず、この仕事を続けているならば私は詐欺師と言われても仕方がありません。手法を公開しているのはそのことを投資家に理論的に納得して頂きたいという悲願の発露にほかなりません。